

やまがた 赤い羽根通信【第11号】

社会福祉法人山形県共同募金会 ☎023-622-5482



R8/7/21 発行

令和 7 年度募金に関する ちょっとした分析

令和 7 年度決算も承認されましたので、今回は、令和7年度募金についてザックリと分析してみたいと思います。

まず、山形県の人口は減少の一途を辿っており、ついこの前 100 万人を切ったかと思ったら、県のホームページによると、令和 8 年 5 月1日の人口は 983,691 人まで減っているとのことです。

一方、世帯数でみますと、いずれも 10 月 1 日現在の数値ですが、平成 17 年が約 387 千世帯、平成 27 年で 393 千世帯、令和 7 年が約 402 千世帯となっており、平成 17 年からの 20 年間で約 4%増加していることとなります。

山形県は三世代同居率が高いといわれていますが、それでも核家族化は進行しているということなのか、それとも同居しつつ住民票上は世帯分離しているのか、両方なのか判然としません。

しかし、これにより人口減少の割には戸別募金の額は概ね微減横ばいをキープしていると思われますが、同時に「募金は任意だから協力しない」と主張する若い世帯主も増えてきたのだと思われます。



一方、市町村ごとに世帯毎の平均戸別募金額をみると、最高額が 721 円/世帯、最低額が 194 円/世帯となっています。傾向としては市部の単価が低く、町村部では単価が高い傾向にあります。

従って、特に町村部で募金確保の拡大を目指す場合、戸別募金をターゲットにすることは現実的ではなく、他の募金で働きかけを強化することが必要となると考えられます。

以前、法人募金がゼロの募金委員会が 11 あると記載しましたが、令和 7 年度決算では 10 委員会に減っていました。

また、ある募金委員会からは「コロナで企業訪問を止めていたが、再開したところ募金額を確保することができた」という話を伺っており、当該委員会の法人募金の実績は令和 6 年度実績と比較して約 80%も増加していました。

もしかしたら、町内会等が企業や商店から募金を集めているためその分が戸別募金の額に含まれているのかも知れませんが、これからは前号で記載した「寄付付き商品」を含め、法人・企業・商店から、いかに募金していただくかというのが当面の我々のテーマのような気がします。



市町村委員会ブロック会議を お盆過ぎから開催します

コロナ禍により、対面の会議は Web 会議に切り替えられ、コロナが収まった現在もその傾向は続いています。

当募金会も近年は、担当者会議・事務局長会議等全て Web で開催しており、募金委員会の担当者とお会いするのは、監査でお邪魔した際や、当募金会に書類を届けてくれる時等に限定されているのが現状です。

この 10 月から始まる募金運動は 80 回目の節目となり、これを機に今後の募金運動のあり方について、市町村募金委員会の皆さんと意見交換していきたいと考えています。現在のところ議題は「寄付付き商品の可能性について」「法人募金高額寄付への対応」「北海道共同募金会の事件を踏まえた事務処理点検について」等を想定しています。

当然のことながら市町村募金委員会からも議題を提案していただければと思います。なお、パーパスについて議論する予定は今のところありません。

ブロック会議出席者の職位は問わず、風通し良い意見交換したいと考えています。

強制はしませんが、別途ご案内いたしますので是非出席くださるようお願いいたします。

また、地理的に地域の中心に近い募金委員会には、会場確保等で相談させていただくことになると思いますのでよろしくお願いいたします。



ありがとうメッセージは、 X に添付できるデータで！

共同募金を理解してもらうためには、何よりも「ありがとうメッセージ」による情報発信が重要であることは過去に何度か書かせてもらっています。

繰り返しますが、ありがとうメッセージは、共同募金会に対してでも、募金委員会に対してでもなく「募金して下さった皆様」に向けた情報発信です。

このごろ、毎日 1 件ずつ X で発信するようになっていますが、受配者からの提出は流石に紙で

は少なくなったものの、PDF によるものが意外に多いことに気づきました。

変に細工されたくないという思いなのでしょうが、PDF データは X に添付することができないため全くの無駄になってしまっています。

受配団体等に対して、改めて「ありがとうメッセージの意味」と「X で発信するので字数は少なく簡潔に」を徹底してくださるようお願いします。



第 15 回赤い羽根全国 ミーティング in あわじリポート

7月9日(木)～10日の二日間にわたり兵庫県立夢舞台国際会議場で標記全国ミーティングが開催され、本県からは酒田市社協 深井 雄樹さんと、新庄市社協の奥山 舞さんから参加してもらいました。

実は、全国ミーティングが淡路島で開催される

予定であることを聞いたとき、「もっと交通の便がいいところにすればいいのに」とか、「神戸から行くのに長時間橋をわたる必要があり効率が悪い」「希望して淡路島に行ってくれる人がいるのだろうか」「食べ物もタマネギしか有名じゃないよね」と心配していましたが、淡路島開催は、それなりの理由があったようです。

今回は、新庄市社協 奥山 舞 さんのリポートをご紹介します。

日本書紀や古事記において淡路島は日本で最初に生まれた島(おのころ島)とされているそうです。

全体会では、日本のボランティア元年と呼ばれた「阪神淡路大震災」から30年が経過し、併せて赤い羽根80年を迎える今、「日本の助け合いの原点を見つめ直す」、人口減少社会において「新しい地域の繋がりや、新たな福祉の仕組みづくりを生み出す出発点」という意味で、国生みの神話から何かを新しく生み出す地とされている淡路島が会場として選定されたとの説明を受けました。

参加に当たっては、交通機関の乗り換えについて徹底的に調べて行ったおかげで、乗るバス路線を間違えそうになりながらも、大き



なトラブルに遭うこともなく無事に日程をこなすことができました。

会場となった「淡路夢舞台」は、観光地としても魅力的で、その壮大な建築と自然のアートを体感することができました。

特に、安藤忠雄氏が設計した、おしゃれなコンクリート打ちっぱなしの幾何学的な空間である「円形ファースム」はその美しさに圧倒されました。



奥山 舞さん



空路 伊丹空港へ

円形フォーラム

【分科会④】 新任さん集合！ 共同募金の楽しさと魅力を考える

新任さんといっても、私と同じように採用されて3か月余りの方から、社協職員として30年従事し、今年から担当になった方などいろいろな方がいらっしゃいました。

分科会④では、3人の方が登壇し発表されましたが、「担当になった当初の気持ちや遣り甲斐」「地域のやってみたいを応援し、いろんな方と関わることができる楽しさ」が伝わってきました。

また、共同募金の周知においてはSNSを頻繁に活用したり、地元のラジオ番組に出演し、日頃から共同募金・社協に親近感を抱いてもらえるような工夫をしている話もしていただきました。

【分科会⑦】80周年記念企画 これまでの歩みを振り返り共同募金を未来につなげよう

分科会⑦で興味深かったのは、西宮市共同募金委員会の活動紹介で、「募金商店街」や



ウェルカムボード

「ガチャ募金」の話を新鮮な思いで聞きました。

また、兵庫県共同募金会のオリジナルキャラクターである「あかはねちゃん」を活かし、ぬいぐる



あかはねちゃん

みやグッズを作成し、子ども達の目に留まりやすくする工夫の話やガチャマシーンを地区し、中身も手作りのものにする等のアイディアや、引きこもりの方

から参加してもらうために、役割を割り当てた実例などを伺いました。

【グループワーク】

グループワークでは、共同募金は循環が大切であり、「寄付を受けた団体や人」、「間を繋ぐ募金委員会や社協」だけでなく、「寄付した人も笑顔になる取組みが共同募金」ということが深く記憶に刻まれました。

【最後に】

事前リサーチでターゲットを定め、「タマネギ」や「タコの姿焼」を制覇し、「淡路牛」もいただきました。



タコの姿焼き



淡路牛